

（クモアズ）既ニ我が航空ハ決勝的威カヲ喪失セリト判断シ  
且島嶼ノ飛行場ハ利用価値甚キミナズ反テ敵ニ利用  
セラルハ害大ナルヲ認識シテ我が軍首脳部ト間ニ摩擦  
ノ生ズルハ止ムヲ得サルトコロナリ

大本營作戰部内ニ於テモ航空主任參謀ト地上作戰主任  
參謀ト間ニ本問題ニ関スル意思ガ必シモ一致シテラサル点ハ  
微妙ニ第一線軍ニ反映セリ迂餘曲折ノ後德之島第三  
伊江島西、沖繩南、東宮古東ノ各飛行場ハ設定一時  
中止トナル反面軍隸下ノ各兵團ハ急ヲ要スル地上戰備ヲ  
一擲ニ約一ヶ月間（九月）ニ亘リ所在島嶼ノ飛行場建設ニ  
強全力ヲ傾注スルヲ餘儀ナクセシメラレタリ

### 五 第二期作戰準備間ニ於テ一般ノ狀況及敵情判断

一 大本營ハ「リアナ」線失陷直後ハ恰カモ敵ノ銳鋒我ガ南西  
諸島ニ指向セラレアルカノ如クニ狂奔ニテ第三二軍戰備強  
化ニ努力セシモ敵ガ「ヘルレー」モロライニ進政ニテ其ノ主作戰線ガ  
依然比島ニ指向セラレト漸次明瞭トナレヤ再ビ其作戰  
準備ノ重点ハ比島方面ニ移行セリ

又 敵機動艦隊ハ十月廿其ノ主力ヲ擧ゲテ我ガ南西諸島ニ  
來龍表セリ此ノ攻東ハ台灣沖航空戰及比島作戰ト一連ノ関  
聯性ヲ有スルモノニシテ其ノ攻東重點ハ沖繩本島ニ指向セラレ  
來龍表延機數一千餘攻東目標ハ飛行場港灣船舶等ニ  
最後ニ島ノ首都那霸ハ燒夷攻東ヲ受ケ數時間ニシテ殆全廢シ  
損害ハ船舶ニ於テ甚大ナリ外死傷軍約二百市民數百名軍需  
品中糧食全軍約一ヶ月分ハ銃機銃彈合計約七十万発  
小口径砲彈約一萬発等ノ被害アリ

敵ノ乘襲目的ハ比島上陸作戰ヲ容易ナラシムルニアリタルベク  
作戰的見テ軍ノ物質的損害ハ輕微ニテ寧日我ニ取リテ空  
襲ニ對シ得難キ訓練モテ又空襲何モソノ自信力ヲ養成  
スルニ至大ナル効果アリタリ

3. 軍ノ地上作戰準備ハ航空作戰準備ニ約ケ月ニ及ハ貴重ナル  
時日ト努力カトヲ捧ゲル等トアリモ時日經過ト共ニ著進捗セリ  
即チ洞窟菜城陣地ハ日ニ鞏固ヲ加ヘ軍及各兵團ノ企圖  
スル作戰方針ニ基テ大規模且徹底セル諸演習ハ續々實施  
セラレテ其ノ効果揚リ第二期作戰準備末期ニ於テハ全軍將  
兵ハ漸ク必勝ノ信念ヲ抱クニ至レリ

4. 第二期作戰準備間老ノ如ク軍首腦部ノ更迭ヲ實施セラレタリ  
軍參謀長 旧北川潔水少將 新長勇少將 (昭和十九年七月十日)  
軍司令官 旧渡辺心夫中將 新牛島滿將 (昭和十九年八月十日)

5. 南西諸島ニ對スル敵攻略企圖ノ判断ハ作戰準備第一期於ケル  
敵情判断第三項ノ算愈々濃厚トナレリ特ニ敵ガ「ヘルル」  
「ゴタ」ニ進攻セル後ニ於テ然リ從ツテ第三軍司令部トシテハ  
敵ノ南西諸島進攻ヲ待機ハ昭和十九年春季以降ト予期セリ  
第三期 (天号作戰準備)

一十月下旬敵ガ中部比島ロイテニ進攻スルヤ大本營ハ捷号作戰ヲ  
發令シ國家總力ヲ與ケテ該方面ニ決戦ヲ求ムニ決シ勢ニ他  
方面ニ於ケル捷二号以下ノ作戰準備ハ其ノ性格ヲ異ニスルベク  
二十日大本營陸軍部作戰課長服部大佐ヨリ軍高級  
參謀八原大佐宛テ電報アリ

左記

「第三軍」ヨリ一兵團ヲ抽出シ比島方面ニ転用スルニ関シ  
協議致シ度キ付十月廿日台北ニテ參集セルヲ以テ  
右電報ニ応ジ八原大佐ノ携行セシ軍司令官ノ意見書概要左如シ

意見書要旨

1. 第三軍ヨリ一兵団ヲ抽出セラル、其ノ遺留島場合其ノ沖繩本島タルト宮古島タルトヲ問ハズ其ノ抽出セラレ島嶼ノ防衛ニ関シテハ軍司令官ハ責任ヲ負フ能ハス

2. 若シ必ズ一兵団ヲ抽出セラルトシバ宮古島ニ在ルオチ八師団ヨトス  
3. 若シ軍ヨリ一兵団ヲ抽出後更ニ内地若ハ端鮮方面ヨリ他ノ兵団ヲ補填セラル、考テハ後者ヲ比島方面ニ転用シ前者ハ其ノ儘トスルヲ可トス

4. 大本營が国運ヲ堵シ比島方面ニ於テ決戦スルニ決シタル以上今ヤ南西諸島ノ価値リ大ナラズ寧ロ軍司令官以下軍ノ主力ヲ以テ比島決戦ニ参加セントラ希望ス

機密作戦日誌

軍司令官ハ中途半端ナル兵団抽出ニ関シ嚴守タル反對ノ意志ヲ表明セラレ參謀長モ同様ナリ軍高級參謀ハ此ノ意見書ニ據リ

台北會議ニ於テ極力軍司令官ノ意思圖ヲ奉ジ論争セント決意セシモ軍參謀長ハ此ノ意見書ヲ提出シタル後ハ多ク論議セザラフ可トスルニ日高級參謀ヲ誡タリ

台北會議ニハ第十方面軍參謀長諒山中將以下同軍ノ主要ナル幕僚大本營參謀服部大佐及オチ三軍ノ高級參謀出席セリ會中議一般ノ空氣ヨリ觀察スルニオチ十方面軍ハオチ三軍ヨリ一ヶ師団ヲ抽出スルトニ頗ル熱心ニシテ其ノ底意ハ之ヲ比島決戦ニ参加セシメントスルニアラシテ台湾ノ増強ニ使用セントスル企圖明瞭ナリ

斯カル重大ナル會議ニ軍參謀長長少將ヲ招致スルニオチテ高級參謀ヲ指名參集セシメタルハ剛強長少將ニシテハ取扱ヒ難キ故ニ斯カル処置ニ出テタレモノナレシ

三兵力ノ抽出

台北會議後直チニ大本營ハ軍ヨリ中迫連オチ四オチ五大隊ヲ抽出シテ比島ニ送リ十五糧道砲合計二十四門ナリ軍ハ必勝ノ根基セシ軍砲兵隊ヲ以テスル橋頭堡殲滅射撃威力頓ニ衰ヘ落莫ノ感深シ

右兵力ハ抽出ニ引續キ遂ニ大本營ハ沖繩本島ヨリ九師団ヲ抽出シ其ノ選定ハ軍ニ委任セリ  
中何カノ師団ヲ抽出スルニ決シ其ノ選定ハ軍ニ委任セリ  
軍司令官ハ十月十七日大本營命令ニ基キ九師団ヲ転用スルニ決シ  
其ノ精神ハ先輝アル一丈ヲ有スル最精銳兵団ヲ皇軍ノ決戦場ニ  
捧ケントスルニアリ相シハ捷ニ号シ作戦ノ方針ニ基キ凡ソ惡條件ヲ克  
服シ築城訓練ニ日夜奮勵シ全軍ノ將兵漸ク敵軍減シ自信ヲ  
深メンタル際相次イテ強カナル兵力ヲ抽出セラレ一切ノ計畫努力水地  
ニ帰シ危機ヲ目前ニ控エテ残サレタル劣弱ナル兵力ヲ以テ作戦準備  
再出發ヲナサザルベカラズ沖繩失陥ノ因實ニ此ノ時ニ始ル國軍全般ノ  
作戦ヨリ觀察シ大本營及才十方面軍ノ兵力運用ニ固ク手腕  
如何ハ後世史家ノ批判ニ委センノミ  
四、軍司令官ハ十月二十五日沖繩本島ニ於ケル新作戰計畫ヲ決定シ  
本計畫ハ大本營若ハ方面軍ヨリ新情勢ニ応ズル才手一軍ニ對シ  
新作戰企圖若ハ新任務ヲ示セルニトナシ軍ノ基本的任務、殘セ  
先兵力並ニ國軍全般ノ作戦上ノ要求ヲ勘案シ軍が独自  
其ノ最善ヲ盡サンタル意圖ヲ以テ策不足スルモノナリ

コリアナ線ノ場合ト同様比島戰ノ場合ニ於テモ大本營ハ決戦ノ指導ニ  
忙殺セラレ状況不利ノ場合ヲ洞察シ速ク万全ノ處置ヲ講ズルノ餘裕  
ナカリレナラン

### 沖繩本島ニ於ケル新作戰計畫

#### 方針

軍ハ一部ヲ以テ極力永ク伊江島ヲ保持スト共ニ主力ヲ以テ沖繩  
島南部島尻地区ヲ占領シ島尻地区ニ防禦陣地帯、沿岸  
ニ於テハ敵ノ上陸ヲ破摧シ北方主陣地帯、陸正面ニ於テハ戰略  
持久ヲ策ス、敵が北中飛行場方面ニ上陸スル場合ハ主力ヲ以テ同方面  
ニ出動スルヲアリ

#### 要領

別紙要圖カニ如シ

#### 兵團部署

### 五、新作戰計畫ノ企圖スル上ヨリ説明セバ尤、如シ

人捷号作戦ニ於テハ徹底セル決戦主義ナリ是ニ新作戰計畫ニ於テハ  
戰略持久ノ思想ヲ基本方針トシ若シ敵が軍主力ノ防禦地帯  
沿岸ニ上陸スル場合ハ之ヲ海岸地帯ニ重戦ス、企圖ト希望ヲ有カ

2. 兵力ヲ占領地域ニ適合セシムル爲中頭地域ヲ放棄シ軍主力ヲ島尻地区ニ集結セリ
3. 混成旅団主力ヲ島袋附近ノ要兵ニ配置シ城外支隊の任務ヲ附与セシハ北中飛行場ニ對シ中央部ノ圍心ヲ懸擧セシニ術策ニテ之ヲ支撐トシテ軍主力が該方面ニ出動スルヲ下戰方針ニ記述セルハ同一目的ニ出テシモノナリ蓋シ軍ハ混成旅団、城外支隊式用法並ニ此種軍主力ノ攻勢ハ害ノミ多クニテ益ニ極メテ尠シト判断シアリタレバナリ
4. 北中飛行場ノ敵ノ使用妨害ハ主トシテ主陣地帯内ニ在ル長射程砲(十五哩加農)ノ威力ニ期待セリ
5. 主陣地帯内海岸地帯ニ於ケル敵軍滅ノ理論的根據ハ捷早作戰ノ場合ト同ナリ寧ロ新作戰計畫ニ於テハ併衛地域狹トシ砲兵火力及部隊ノ機動運用著ク簡單容易トナリ以テ攻東成功ノ算確實化セリト思考セリ

六 新作戰計畫策定ニ際シ研究セシ主要ナル諸案ヲ如シ

- 第一案  
混成旅団ハ依然伊江島及本部半島ニ於テ四師團ニ示概ス  
旧配置ニ在ラシメ爾餘ノ軍主力ハ沖繩島南半部ヲ撤シテ  
國頭郡山嶽地帯ニ駐紮シ戰略持久ヲ策ス
- 第二案  
實際ニ採用セシ案
- 第三案  
第二案ト概テ同一思想ナルモ軍主力ヲ以テ中頭郡地区ヲ占領スル案
- 第四案  
捷三号作戰ノ場合ト同一構想ヲ以テ中頭郡島尻兩郡由敵ノ上陸  
莫隨處ニ軍主力ヲ機動集中シ決戰ヲ求ムトスル案
- 第五案  
第二案ヲ採用スルニ至リハ前才五項ニ記述セル根據ニ基ク、外才案  
ハ軍自体ノ持久ハ容易ナク其ノ持久ハ戰略的地価値ニ合シラカ  
案ハ重要飛行場ヲ直接確保シ得ルノ利アルモ地形薄弱ニシテ

戦術上不利ヲ四安未ハ軍ノ兵力激減ノ結果攻取成功ノ算計ナシト判断ニ據ルモナリ又才一三四安未ハ現態勢ヨリ新態勢ニ転移スルニ於テ既設築城ノ利用集積軍需品ノ輸送等ニ於テ著シク不利ナハナリ

七各兵團ハ新作戦計畫ニ基キ十一月末ヨリ十二月旬ニ亘リ新作戦地域ニ轉移シ新タル築城訓練ニ著手セリ

然レドモ各兵團部隊ガ真劍ニ築城訓練ヲ開始セルハ昭和三十年以後ノコトニ屬ス事情斯ラナル理由尤ノ如シ

一精銳ナル才九師團其他兵力ノ抽出転用ニ因ル志氣ノ沈滞

二過去數ヶ月ニ亘ル訓練築城ニ対スル必死ノ努力ガ水泡ニ帰ル事

三築城材料(坑木ノ所要量ノ莫大ニテ一兵團ノ爲ニ數万モヲ必要トス)軍需品等ノ新作戦地域ヘノ輸送難

四新居徑設備(軍ニ於テハ軍紀風紀ノ維持上住民ノ混住ヲ嚴禁セリ)爲ノ努力

八作戦計畫一部ノ変更

混成旅団ヲ島袋附近ニ配置セル軍ノ真意ハ前述ノ通りナルカ軍ノ

主陣地帯ヲ具ニ巡視シ其ノ正面ト兵力ノ關係ヲ檢討スルニ未ダ正面過廣ニシテ安心ヲ許サズ少クモ歩兵一大隊ノ占領正面ヲニ料程度ニ緊縮セザルベカラズ 戦術上ノ要求ハ嚴重ナリニテ此ノ偽裝虚飾ヲ許サズ茲ニ於テ軍ハ斷乎タル決心ヲ以テ一月中旬混成旅団ヲ主陣地帯内ニ撤退セシムト共ニ北中飛行場方面ニ対スル軍主力ノ出軍企圖ヲ完全ニ放棄スルセリ

混成旅団撤退後ニ於ケル軍主力ノ兵力部署ノ概要別紙要圖

中三ノ如シ

九北中飛行場地区確保ニ関スル論争並ニ兵力強化問題

軍ガ新作戦計畫ニ基キ北中飛行場ヲ主陣地帯外ニ置キ該地区ニ在リシ才四師團ヲ島尻方面ニ移動セシムルヤ陸海各方面ニ於テ相当ノ難色アリ更ニ混成旅団ヲ主陣地帯内ニ撤收シ該方面ヘノ軍主力出軍ノ企圖ヲモ放棄スルニ及ビ其ノ空気が愈々悪化シ中央部ハ勿論關係航空部隊モ北中飛行場地区再強化ノ要求熾烈ナリ

軍首腦部ハ他、何人ヨリモ北、中飛行場ノ戰略戰術上ノ価値ヲ深ク認識シテ、此ニ大飛行場ハ一度敵ノ真面目ナル攻襲ヲ受ルニ至ルニ南西諸島中他飛行場ト同様先ズ敵空軍ニ制圧セラレ次デ敵艦砲ノ有効射程下ニ曝サルベキガ故ニ我が空軍ノ爲メ使用価値ハ殆皆無ニ近キヲ明瞭ニシテ問題ハ勉ク永ク敵空軍ヲシテ之ヲ利用セシメザルニアリ

混成一旅団程度ノ兵力ヲ廣大ニシテ地形薄弱ナル該地ニ配置スルモ從來ノ戰例ニ明ク如ク其ノ持久日數ハ兩三日ヲ出テサルヘク可惜其代償トシテ軍保有戦力ノ數分ヲ一擧ニシテ消耗セザルベカラズ斯カル程度ノ持久力ハ軍ハ主陣地帯内ノ長射程砲ニ依リ易クトシテ其ノ目的ヲ達シ得ベシ全島ノ用兵ノ構成ヲ深ク慮ラズ戰術上ノ基本的原理ヲ逸脱シ優先ノ自負ノ一方的衝動的な要求ニ軍トシテ志シ難キトヨナリ

眞ニ北中飛行場ノ使用妨害ノ實効ヲ期セントセバ徹底的ニ軍ノ

兵力ヲ増加セザルベカラズ茲ニ於テ軍ハ聯合艦隊關係地陸海空軍ト相提携シ大本營對シ兵力増加ニ俟タル意見ヲ具申セリ此故カ昭和十一年一月二十三日在姫路ヲ八十五師團ヲ中島ニ増遣スルヲ大本營命令アリ一同欣喜セシモ同日夕取消電報來著自今亦三軍ニ軍ニ兵力ヲ増加セザルモ軍需品ハ能ク限リ追送スルハ

- 中央ノ方針明瞭トナレリ
- 依ッテ軍ハ依然北中飛行場地区ニ對シ處置ハ変更セズ幾多ノ経緯ヲ経ル後亦十方面軍(大本營)ト向ニ互ノ如キ了解ヲ以テ戦斗ヲ開始セリ
  - 十方面軍ハ台湾教導聯隊ヲ沖繩ニ急派シ亦三軍ハ之ヲ以テ北中飛行場ヲ直接防禦ス
  - 亦三軍ハ主陣地内ヨリ長射程砲ニ依リ極力長期且有効ニ北中飛行場ヲ制圧ス
  - 3. 特設中(聯隊)兩飛行場地区ニ展開シテ亦十九航空地区司令

部飛行場大隊特設警備工兵隊等ヲ以テ編成シ總員約二千名ナリ)及才立十二師團ノ前進部隊タル獨立歩兵才十二大隊ハ飛行場地区ニ於テ真面目ニ持久戦斗ヲ實行ス

4. 挺進斬込部隊ヲ陸海両方面ヨリ常續的ニ出動セシメ西飛行場ヲ擾乱ス

### 一、兵力ノ自力増強

第三軍三軍ニ兵力ヲ増強セストノ大本營ノ方針ヲ承知シ且刻々情勢ノ緊迫ニシテ尤モ感知セル軍ハ一日雖モ爲メスト云ナク安如ク得ズ凡テ特殺ヲ盡シテ戦力ノ自力増強ニ努力セリ

第三期作戦準備間ニ軍ノ實行差兵力増強ノ諸施設概要尤ノ如シ

1. 獨立大隊七ヶ大隊ノ編成  
海上挺進基地大隊ハ總員約九百知ヲ有シ三勤務中隊ト一整備中隊ヨリ成ル兵員ノ平均年齢ハ大隊ニ依リ三三、三才乃至三五六才既教育兵

頗ル多ク全員小銃ヲ携行ス

大隊ノ任務ハ海上挺進戦隊ノ攻取資材(主トシテ攻取用ノ発動艇及爆薬)ノ掩護、秘匿、送水等ノ工事及整備並ニ戦隊ノ宿營給養食等ヲ擔任スルニ在リ昭和三年ノ初頭ニ於テハ既ニ以上諸工事ハ概成ニシテ斯カル有力ナル部隊ヲ單ニ出動時ノ送水ノ爲ニ存置スルハ軍全般ノ作戦上ノ要求ヨリ見テ失者ナリ依ツテ各大隊ノ整備中隊ハ各戦隊ニ配属存置ニ爾餘ハ獨立才一乃至才三大隊全才三乃至才三九大隊ト改称シ紀然タル戦斗任務ニ服セラルニ決セリ

各獨立大隊ハ従来ノ裝備ノ外輕機、重擲各十~~數~~重機數銃ヲ増備セラレ平均總員約六百七ヶ大隊合計約四千ニシテ才由師、才立十三面師團長及獨立混成才四十四旅團長ノ指揮下ニ分属シ教育訓練ノ精到ヲ期セリ

2. 特設諸部隊ノ編成



後方諸部隊に雖戰鬥開始後ハ島嶼予備隊ノ特性ニ鑑ミ  
其ノ主力ヲ以テ紀戰鬥ニ參加セシムルヲ有利トス依ツテ軍ハ後方  
諸部隊ヲ戰鬥ニ便ナル如ク後編成シ之ニ相當數ノ自動火器  
重擲ハ銃、急造爆雷等ヲ增加裝備シ尤如ク特約部隊ヲ後編  
成セリ

特設第一聯隊

中十九航空地区司令部以下北中飛行場地区ニ在リシ飛行場  
大隊ニ、特設航空備工兵隊ニ要塞建築勤務中隊一等ヲ  
基幹トシテ編成ス  
総員約三千ナリ

特設第一旅團

長 中四十九兵站地区隊長  
特設第二聯隊  
兵站諸部隊ヲ成リ総員約三千ナリ  
野戰兵器廠ヲ基幹トシ総員約二千ナリ

特設中四聯隊

戰戰化其物廠ヲ基幹トス 総員約一千五百ナリ

特設第二旅團

長 第一船舶團長

特設中五聯隊

各海上挺進戰隊出動後ノ殘留人員ヲ以テ編成ス予定シ  
テ総員約三千五百ナリ人員ノ過半数ハ防衛召集者トス

特設中六聯隊

中七船舶輸送司令部沖繩支部海上輸送大隊滯留機  
帆船要員等ヲ成リ総員約一千ナリ

3. 防空諸部隊ノ地上戰鬥參加

軍ノ築城逐次進捗スニ伴ヒ且從來ノ敵ノ空襲效果ニ鑑ミ  
戰鬥開始後ハ有力ノ防空諸部隊ハ其ノ本来ノ防空任務ニ  
使用スルヨリハ這テ直接地上戰鬥(對戰車對舟艇等)地砲  
兵(用法)ニ參加セシムルヲ有利ト判断シ予テ戰鬥開始後ニ

於此防空各部隊、才線諸兵團へ、配屬並に配屬後ノ  
戰鬥任務ヲ予定シ之ニ基キ警備其地ノ戰鬥準備ヲ美  
施セシメタリ斯レテ地上戰鬥ニ參加ス(キハ防空火番ハ七五  
高射砲約七十門、高射機関銃約百門(海軍所屬ノ機  
肉砲約十門ヲ含ム)ナリ)

#### 4. 防衛召集

特設警備中隊、特設警備工兵隊、要員ノ外全島民  
皇土防衛ニ參加スヘキ精神ニ則リ軍加既和洋年一乃至三  
間ニ於テ防衛召集セシ人負尤ノ如ク本防衛召集依リ中  
繩島民中滿十七才ヨリ滿四十五才迄ノ男子ヲ殆全負戰鬥ニ  
參加スルコトナレリ  
海上機進戰隊、爲ノ作業要員  
右海上基地大隊、主力ヲ戰鬥部隊ニ改編セシ補充トシテ  
在本島四戰隊、爲合計約三千

#### 兵站地區隊、爲ノ作業要員

在慶良間群島各海上基地隊、主力ヲ戰鬥部隊ニ  
改編シ沖繩本島ニ轉用セル補充トシテ兵站地區隊長指  
揮下、水上勤務一中隊ト一隊ヲ之ニ充當セシ爲新ニ兵站  
地區隊ノ作業要員トシテ約二千

一般戰鬥部隊ノ戰力前二項以外ノ各後方部隊ノ作業力ヲ  
夫々増強スル爲約一万五千

#### 5. 男女中等學生、軍隊編入

沖繩本島内男子中等學校上級生ヲ以テ銃見義勇隊ヲ  
編成シ之ヲ各戰鬥部隊ニ分屬セリ一部人員ハ昭和十九年秋ヨリ  
通信兵要員トシテ教育中ニシテ其ノ成績良好ナリ總數約千五百  
沖繩本島内女子中等學校上級生ハ昭和十九年秋ヨリ計書  
的衛生勤務要員トシテ教育中ニシテ總數約六百

十一 天号作戰

軍公前逃、如ク独自ノ立場ヲ以テ、中三期作戰準備ヲ計畫中準備  
シヨカリシガ比島ニ於テ、連日作戦絶望ナリシハ、昭和二十一年  
頃以來、新情勢ニ応ジテ、大本營ノ作戰計畫、漸次修正ナリ  
夫等作戦ノ節、天号作戦ノ方針ハ、本土決戦ヲ主眼トシ  
南洋諸島、山岳、台湾、支那本土、朝鮮、南洋、佛印等ノ敵ノ進攻ス  
ルニ対スルキ場合ヲ想定シ、之カ作戦ヲ策定スルモ、天号作戦ノ一般  
ノ目的ハ、本土決戦ヲ容易クナラシムルニ在リ、沖繩ニ敵ノ進攻スル場  
合、天号作戦ト稱セラル

昭和十九年十一月以來、軍ノ作戦方針ハ新ニ策定シ、天号作  
戦ノ方針ニ合致セリ、以テ、変更ノ要ヲ認メ、且此ノ作戦計畫ノ  
内容ハ、航空作戦ニ對シ、事項カ主体ニシテ、地上作戦ニ於テハ、中  
飛行場地区ノ防衛、亦カ部分的ニ問題トナシ、(略)ナリ

天号作戦ヲ觀察スルニ、我が陸海ノ空軍ハ、南西諸島ニ予定スル集  
中兵力ハ、其ノ主力トモ考ヘラレ、軍ノ本質点作戦任務カ本土決戦ヲ  
容易クナラシムベキ戰略持久ナルニ似ズ、強大ナル軍ノ、頗ル意ヲ強クスル上、早  
然モ戦斗方式カ全部張リ付ケ、特攻主義ニ成功ノ確實可期ニ  
莫ニ於テ益ニ然リ、即チ我が沖繩本島ノ各飛行場ノ、ニ於テモ展  
開予定兵力ハ、約二百機ニテ、軍ハ之カ秘密格納設備ノ完成ニ  
努力シ、三月中旬頃ニ於テハ、全機展開可能ノ状態ニ在リ

以上ノ如ク、天号作戦ニ於テハ、航空作戦計畫ハ、軍首脳部ヲ感激セ  
シムルモ、ヤリシニ、敵ノ進攻時機ヲ三月下旬乃至四月上旬ト判断シ、航  
空部隊ノ展開完了時機ガ四月末ト計畫セシマレ、時機ヲ失スル虞  
レ頗ル大ナリ、實際ニ於テ、軍ノ憂慮セシ通り、計畫ニ基キ、航空部隊ハ  
三月二十六日敵ノ上陸準備砲爆、轟、最中僅ニ六機ガ漸ク到着セリ、  
テ他ハ、沖繩ノ展開スルニナリ、戦斗勃發セリ

十二 航空作戦準備

軍ノ十月中旬、台湾沖航空戦ニ於テ、軍ノ努力ニ応ジ、各飛行場

(主トシテ伊江島及沖繩)ニ數百機、陸海空軍ヲ展開セシメ且之カ出  
運準備ヲ援助シ優渥ナル勅語ヲ賜リ和爾後昭和十九年十月、  
昭和二十年、初頭ニ至ル間比島決戦参加ス、連日十數機乃至百數  
十機ニ及ブ南下ス陸海航空部隊ノ機動ヲ援助シ其ノ數概テ百機  
ニ比島航空作戦ニ鑑ミ我が空軍ノ戦法カ既述ノ如ク張り付ケ特攻主義ヲ  
採用スルニ至ルヤ軍ハ之ニ即之スル爲既ニ概ニ完成セル南西諸島各飛行場  
ノ施附施設特ニ飛行機ノ秘匿遮蔽掩護ノ諸設備擴張ニ努  
力セリ又此ノ航空戦法ニ関聯シ主陣地帯内ニ於テ最後迄使用シ得ル飛  
行場ヲ保持スルニ要アリト判断シ首里北側ニ秘密飛行場ノ建設ヲ始メ  
タルモ作業半ニ止リ戦斗勲業ニ其ノ目的ヲ達シ得ザリキ。  
3. 沖繩南飛行場、昭和十九年七月一時之ガ設是中止ヲ命ゼシ其後其  
徑ナリシガ昭和二十年、初頭ヨリ又中央ノ命ニ依リ作業ヲ再開セリ  
因ニ本飛行場ハ首里飛行場ト秘密諸導路ヲ以テ連絡シ相  
互ニ百機一機ノ飛行場ヲラシムル計畫ナリキ。  
4. 天守作戦計畫ニ基テ航空部隊ノ沖繩展開カ機ニ合セザルヲ看取セル  
軍ハ三月ニ入リヤ沖繩本島ニ於ケル全飛行場ヲ即刻徹底的ニ破壊スルヲ

有利ナルト自意爲テ具申セリ、  
蓋シ伊江島ノ各飛行場、沖繩ノ北中飛行場等ハ今ヤ概テ支軍ノ使用  
スル見込ナク我ニ價値ナク多敷ノ飛行場ヲ完全ニ存置シテ敵手ニ委ヌルカ  
如キハ愚ノ骨頂ナリ各飛行場保持ノ爲一聯隊一旅団ノ兵力ヲ配置スルモ  
其ノ特久日數ハ數日ヲ出デザルベク空ニテ數千ノ將兵ヲ犠牲トスルニ至リ今  
断乎先決意思ヲ以テ徹底的ニ破壊シ置カバ一兵モ損スニトナリテ數倍  
日數ヲ得ルコト得ヘク天下ニヨリ明白ニテ賢明ナル策ナリトノ理由ニ依リマナリ  
軍ノ意見具申ハ直ニ認メテ先カ伊江島飛行場ハ破壊ヲ許可セラレリ  
依テ軍ハ一月十日頃ヨリ所在航空關係ヲ以テ之ガ破壊ヲ開始シ三月末頃  
機材力能達セル米軍ト雖モ之ガ補修ニ十日ヲ要スベト判断セラル、  
程度ニ作業進捗セリ。  
十三、後方進備  
1. 兵畧關係  
比島作戦ノ絶望狀態ニ入リヤ大本營ハ同方面ニ輸送中ノ兵畧ヲ  
軍ニ交付セリ其ノ概數尤、如シ